

あ と が き

本気だったんだ。本当に造っちゃった！ 欧州電が世界初の総二階建て超大型旅客機、エアバス A380 の完成を伝えている。春には初飛行し、数年後にはエールフランスが日本線にも投入するという。最大853座席、航続距離もジャンボを上回る。営業面でのリスクは大きいはずだ。5000人、ごま粒大の式典招待者たちの中央に屹立する巨人機のカラー写真を実際に目にするまでは、まさかこれを本気で造ろうとは思っていなかった。欧州技術の実力や恐るべしである。

昨秋、サンタフェの核データ国際会議で、久しぶりに BNFL の Mills 氏と話をした。彼はまだ若い、Crouch から James へと連なる英国の核分裂収率評価研究の伝統の後継者として貫禄を増してきた。今度自分のところに博士課程の学生が来るので、仕事はもっと進むと期待を込めて語る。欧州の収率評価研究もしばらくは安泰なようである。世代から世代へ着実に仕事を引き継いでゆく。一步一步を着実に積み上げ、それがいつか大きな成果となって実を結ぶ。A380 もそのような地道な技術の蓄積があって初めて可能となったのではないだろうか。シグマ委員会の仕事もつこのような一面は決して無視してはならないと思う。

サンタフェでは辛い知らせにも接した。ロスアラモスの B.Wilson 氏が私を探し出し、「心臓手術の術後が芳しくなく、せつかくお前が近くまできているのに、会うことも、電話口に出ることもできず残念だと」という T.R.England 氏の言葉を伝えてくれた。England 氏といえば、アメリカの核分裂生成物挙動研究の第一人者。水戸国際会議で来日し、本誌に日本印象記を寄せてもくれた（核データニュース、No.31、(1989)、p.16）。氏の着実な回復を祈るばかりである。

(吉田 正)

yos@ph.ns.musashi-tech.ac.jp

核データニュース編集委員会

中川庸雄（委員長、原研）、井頭政之（東工大）、岩本 修（原研）、長谷川明（原研）、
山野直樹（東工大）、吉田 正（武蔵工大）、[オブザーバ] 喜多尾憲助、[編集] 石橋貞子